

事業概要

コンソーシアム名：介護送迎業務効率化に向けたITシステム連携推進コンソーシアム

事業概要：通所介護施設の運営上の多くを占める送迎関連業務をIT連携により効率化することで、労働集約型で生産性が低い傾向にある介護事業者の生産性を高める。

【取組地域】

・千葉県八千代市

【対象業種】

・医療福祉業・介護分野

【対象業務】

・送迎計画作成業務等

コンソーシアム構成員

幹事者：

株式会社エルダーテイメント・ジャパン

中小ユーザ企業：

株式会社エルダーテイメント・ジャパン

ITベンダー等：

バナソニック カーエレクトロニクス株式会社

株式会社SMS

株式会社スターコンサルティンググループ

現状の業務課題

送迎計画作成にあたり、順序、利用者の身体状況など多くの条件を加味する必要がある。事業所規模（利用者数）が大きくなるほど条件の組み合わせが複雑になり、計画作成や送迎準備、実行には大きな負担がかかっている。業務負担が大きだけでなく、条件を把握した人材が必要で属人的な仕組みとなり生産性を低下させている。

連携させるITツール

ドライブボス：送迎計画自動作成
カイポケ：介護請求業務の効率化

主な取組内容

送迎計画を作成するにあたり作成ソフト（ドライブボス）に、介護請求ソフト（カイポケ）から利用者予定や利用日変更を取り込む必要があった。今までは、都度、人の手でデータ加工する必要があったが、今回その一連作業全てをRPAにより自動化。その結果、ツール間の連携作業そのものの完全自動化を実現。また副次的効果として、誰でも作業ができるようになったことで、職員の定着率向上効果と新人育成期間短縮にも効果が見られた。課題の解決にあたり、複数の介護施設の状況調査と本事業の取り組みや業務効率化に対する研修を、全ての施設職員に行うことで心理的導入ハードルを下げることに努めた。

送迎計画作成ソフト（ドライブボス）と介護請求ソフト（カイポケ）の連携をRPA等を活用し自動連携システムを新たに構築。今後は、より安定した連携・普及のためにAPI等による直接連携を目指す。並行して、介護現場特有の制度・組織背景も定着阻害要因にある。確かな定着運営のためにマニュアル・研修コンテンツも含めた汎用パッケージ化を目指す。

送迎ソフト 

連携ツール
(RPA連携)

手入力
連携

介護請求ソフト 

* 今後はAPI連携を視野に直接連携を目指す

次年度以降の展望

- ・限定した介護請求ソフトとの連携にとどまらず、広く一般的に適用できる体制を構築して、全国の介護施設へ販売展開をしていく。
- ・生産性向上の視点から、送迎業務のみにとどまらず運営全般に業務効率化を推進していく。

定量的な成果目標

①労働生産性（事業終了後）

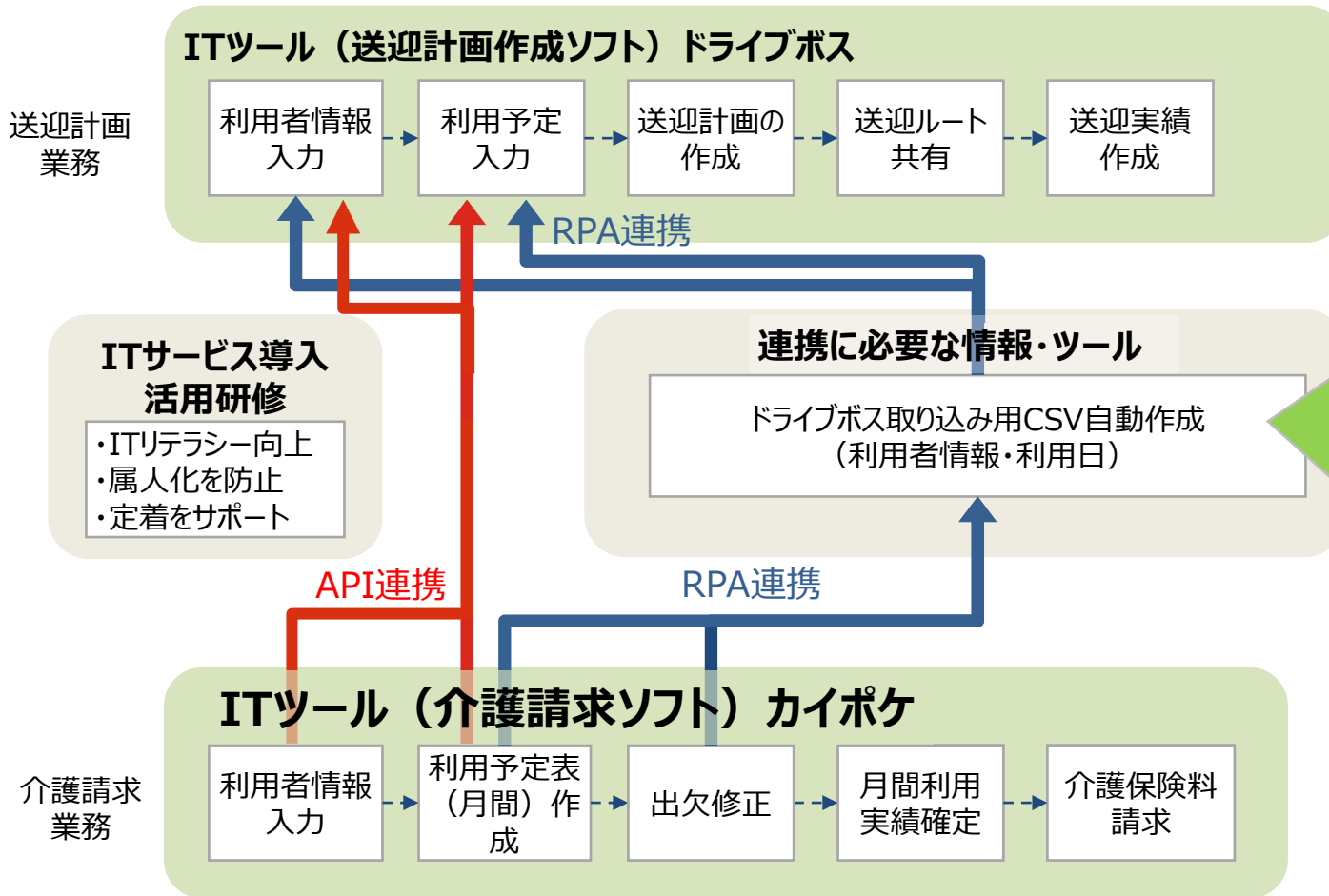
1年後：3%、2年後：6%、3年後：9%

②送迎計画作成・報告業務時間の削減（現状110分/日）

1年後：△80分/日、2年後：△90分/日、3年後：△100分/日

RPA自動連携により業務負荷を大幅に軽減。送迎計画作成報告業務が110分/1日から30分/日へ短縮。全社ベースでは労働生産性の3%の向上が見込まれる。

ITツールの連携による生産性向上の取組（アフター）



【実績報告までの実施事項】

2時間かかっていたITツール間で必要なデータ作成（EXCELのVBC）を、RPA連携により自動生成される仕組みを構築。またより定着を確実にするために導入時研修を実施。

【今後実施予定の事項】

RPAでの連携をさらにブラッシュアップし、1次ステップとしてカイポケ側からのCSV直接出力対応を22年内対応で検討。2次ステップとしてAPIによる直接連携を23年内対応を目指し、22年10月より集中し対応協議を実施する。また、並行してPRAによる普及展開時の定着阻害要因として介護現場組織・制度背景を加味した導入サポート手法を取り入れ横展開を実行する。

- …ITツールのカバー範囲
- …業務内容
- …業務の流れ
- …ITツール間で連携済み
- …本補助事業で実施済み
- …実績報告後に実施予定